

「結婚とは」

佐々木賢成

『蓮如上人御一代記聞書』に、「あかお（赤尾）の道宗、もうされそうろう。『一日のたしなみには、あさつとめにかかさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様の御座候うところへまいるべしと、たしなむべし。一年のたしなみには、御本寺へまいるべしと、たしなむべし』と云々」とあり、真宗門徒は、一日に一度はお内仏の前へ、一月に一度は手次ぎの寺へ、一年に一度は御本山へ参るべしとされてきました。今お聴きのあなた、今日お内仏に参られましたか？

さて手次ぎの寺では、聞法の方が、報恩講や永代経などの行事の中で開かれているはずですが。私がお預りしているお寺では、法事や葬儀で本堂や庫裏が門徒の方々に使用して頂いております中、昨年には、住職として初めて仏前結婚式を執り行いました。式次第の資料を集め、拝事の道具を用意し、新郎・新婦と何度も打ち合わせを重ねて、思った以上に厳かな式となりました。住職である私は、勤行や表白を拝読し、最後に新郎・新婦に向かい一言、お祝いの言葉を述べることになった時に、念仏詩人であった、榎本栄一さんの言葉を送らせてもらいました。それは榎本さんが若い学生さん達との語らいの中で、「結婚とはどういう事ですか？」との問いに対して、「結婚とは、自分の一番身近な所に、これだけ自分と意見の違う者がいるんだと教えて頂ける御縁です」とおっしゃったそうです。全ての出来事や人との出遇いから気が付かされるために、心と眼が開かれていたいものです。